

令和7年度健康部の主な取り組みについて

資料1

| 担当課     | 事業概要  | 令和6年度実績  | 令和7年度見込み  | 取組状況  | 今後の方向性   |
|---------|---|--|---|---|--|
| 保健医療企画課 | ○ 新型インフルエンザ等行動計画の改定<br>・新型コロナウイルス感染症対応を経て、国は新型インフルエンザ等政府行動計画の改定を実施。それにあわせ豊橋市新型インフルエンザ等対策行動計画の改定を行う。   | —  | 令和8年3月改定  | ・9月に素案を作成し、各課と内容を調整。感染症対策部会を開催し専門分野の委員から意見を聴取。<br>・11月福祉教育委員会に報告。<br>・「パブリックコメントを実施し市民の意見聴取し改定する。   | ・本計画に基づき、健康危機に備えて平時から体制整備を進める。さらに、新型インフルエンザ等の発生時において強化・拡充すべき業務や縮小する業務に区分した、業務継続計画を改定していく。  |
| 保健医療企画課 | ◎ 災害時の避難所における衛生環境の整備<br>・避難所における災害弱者(特に高齢者)の生命の安全の確保及び災害関連死を予防するため、段ボールベットを購入し福祉避難所等に配付。<br>・衛生環境整備のための講座を開催し、知識を普及・啓発。   | ・福祉避難所施設に配付について周知し、受け入れ数の調査を実施。<br>・講師を招き、ハイブリット研修を開催。<br>対象:全職員<br>参加者:68名(現地40名、オンライン28名)                              | ・32箇所の福祉避難所に237個の段ボールベットを配付。保健所に残り48個を保管。<br>・2/16研修開催予定。<br>・防災リーダー養成講座及び総合防災訓練にて啓発。   | ・配付した段ボールベットを、保健所にて展示。<br>・災害医療の専門家による研修開催。<br>・市の避難所マニュアルの見直しへの協力。<br>・防災リーダー養成講座及び総合防災訓練にて啓発。   | ・福祉避難所へ、継続して段ボールベットの配付希望を募る。<br>・引き続き研修を開催し、防災リーダー等市民への周知を図る。  |
| 保健医療企画課 | ○ 帯状疱疹予防接種事業<br>・帯状疱疹予防接種が定期化されるため、定期接種対象者への個別通知を実施する。任意接種の費用助成も継続して行っていく予定。  | 任意接種<br>ビケン:326人<br>シングリックス:延べ3,875人   | 任意接種見込み<br>ビケン:328人 シングリックス:延べ3,548人<br>定期接種見込み<br>ビケン:1,194人 シングリックス:延べ10,572人   | ・定期接種対象者向けに、広報とよはし、FMとよはし、市民課窓口サーネージ等を利用し予防接種の広報を実施。医療機関窓口にも、任意及び定期接種について周知用ポスターを掲示依頼   | ・令和7年度と同様に広報等実施していく  |
| 保健医療企画課 | ○ HPVワクチンキャッチアップ接種事業<br>・HPVワクチンキャッチアップ接種対象者の未完了者について、接種完了まで期間を延長。  | 延べ8,516人接種   | 延べ1,283人接種見込み   | ・FMとよはし、市民課窓口サーネージ等を利用し予防接種の広報を実施。医療機関窓口にも、周知用ポスターを掲示依頼(令和6年度末に延長について個別周知済)   | —  |
| 保健医療企画課 | ◎ 保健所・保健センターフリーオープンスペース(吹抜け部分)特定天井改修工事<br>※特定天井:大地震発生時等に脱落によって危害を生ずるおそれがある天井(6m超の高さにある200㎡超の吊り天井)   | —  | 令和7年12月、改修工事竣工  | ・フリーオープンスペース(吹抜け部分)の天井の耐震化及び当該箇所の照明設備LED化   | —  |
| 保健医療企画課 | ◎ HIV検査抗体検査事業<br>・HIV等性感染症の匿名検査の予約について、Webによる予約へ移行することで、24時間予約ができ、利便性が高まること、アンケートの事前実施など効率化を図られる。   | ・行政デジタル推進室の事業による協力を得て、令和7年度からkintoneアプリを用いた検査予約及び結果通知のオンライン化を実現し、開始した。   | ・24時間Web予約可能となり、漏れの少ない需要対応ができるようになった。なお、開庁時間外の予約は全体の60%を占めていた。<br>予約枠:1日当たり12人から15人に拡大<br>受検者数:過去2年平均の1.3倍に増加(見込)   | ・気軽に検査を予約でき、結果受け取りのための再来所も不要として、「いつでも、どこでも、検査予約・結果確認ができる」ようになった。  | ・予約枠を1日当たり18人に拡大し継続実施。<br>・データの蓄積・活用方法の模索により、適切なニーズの把握や新たな課題の発見に繋げ、更なる利便性の向上を図っていく。  |
| 健康増進課   | ○ 禁煙支援の推進<br>・禁煙を希望する人への禁煙支援及び若い世代に大学や専門学校の食堂などに三角POPで喫煙による健康問題等知識の普及啓発を実施。   | ・個別禁煙相談<br>回数29回 実7人/延29人<br>・禁煙相談啓発用チラシ配布:6,390枚<br><br>・若い世代へ啓発:市内大学・専門学校、二十歳の集い等で二次元コード付ティッシュを配布<br>9,381枚            | ・個別禁煙相談(12月までの実績):回数 2回<br>実2人/延2人<br>・禁煙相談啓発用チラシ配布<br>5,705枚配布<br>・若い世代へ啓発:三角POP配布<br>6施設 185枚<br>・20, 30, 40.50歳の歯周病検診未受診者勧奨(禁煙啓発二次元コード付き)ハガキ送付:16,207人 | ・禁煙相談啓発用チラシを 医療機関、薬局、市役所、図書館、イベント会場等で配布<br><br>・市内大学・専門学校の食堂等に三角POPを設置することで長期間啓発できるようにした。<br>・20, 30, 40.50歳の歯周病検診未受診者勧奨ハガキに二次元コードを添付し、禁煙の啓発を実施。            | 継続実施<br>・若い世代へ啓発を、歯周病検診の受診券や40歳未満の子宮頸がん検診のご案内に禁煙啓発の二次元コードを添付する方法へ変更することで、受診券等を受けとる節目年齢の対象者全員に啓発を実施していく。  |
| 健康増進課   | ○ 疾病(成人保健)対策の推進<br>・がん検診、生活習慣病予防検診の実施<br>・検診受診率向上のための対策<br>集団健診におけるがん検診及び骨粗しょう症検診、特定健康診査の同時実施による利便性の向上<br>・医療機関等に検診の案内冊子等を配布し啓発   | ・集団健診におけるがん検診等と特定健康診査の同時実施回数:16回/23回<br>・検診の案内冊子等を配布 128,523枚<br>・受診券を送付していない22～48歳までの偶数年齢の女性へ子宮頸がん検診の受診勧奨ハガキを送付 17,337人 | ・集団健診におけるがん検診等と特定健康診査の同時実施回数:18回/23回<br>検診の案内冊子等を配布 127,375枚<br>・受診券を送付していない22～48歳までの偶数年齢の女性へ子宮頸がん検診の受診勧奨ハガキを送付 16,862人                                   | ・医療機関、集団健診にて実施<br>・集団健診は、受診者が少なかつた2会場を、受診者の多い保健所・保健センターに移し、特定健康診査も同時実施できるよう受診環境を整えた。<br>・子宮頸がん検診の受診勧奨ハガキ送付者のうち、R6年度は671人が受診し、受診率向上につながった。R7年度も実施し、受診率向上を図る。 | 継続実施<br>・22～48歳までの偶数年齢の女性へ子宮頸がん検診の受診勧奨ハガキは2年継続実施した事でその年代の対象者全員に検診の受診勧奨をすることができた。次年度は違う年代に実施し、受診率向上を目指していく。<br>・20, 25, 30, 35歳の歯周病検診受診券等に二次元コードを添付し、子宮頸がん検診の啓発を実施していく。 |
| 健康増進課   | ○ 特定健康診査・特定保健指導実施率向上<br>・特定健康診査受診率向上のための対策<br>レセプトを活用した医療機関分析を行い、医療機関から定期的に通院している特定健康診査未受診者を対象とした受診勧奨を実施。<br>・特定保健指導実施率向上のための対策<br>直営実施に加え委託を開始し、若い年齢層をターゲットとしたICTを活用した保健指導を実施。 | ・特定健康診査受診勧奨ハガキ2回 延48,983人、SMS4回、延7,870人<br>・特定保健指導実施 積極:49人、 動機付け:247人   | ・特定健康診査受診勧奨ハガキ2回 延53,000人<br>SMS4回 延15,000人<br>・特定保健指導実施 積極:40人<br>動機付け:260人  | ・特定健康診査は、レセプトを活用した医療機関分析シートを各医療機関に送付し、医師からの積極的な勧奨を依頼した。現時点では受診者率の上昇がみられている。<br>・特定保健指導については、委託事業を開始するも利用者が伸びていない。直営による集団保健指導を年度当初から実施。                      | ・特定健康診査は継続実施<br>・特定保健指導については、実施者の確保が難しいため、訪問等を含め実施予定。  |
| 健康増進課   | ○ 働き盛り世代への歯周病予防対策の強化<br>・希望する健康とよはし宣言事業所の従業員を対象に、歯と口の健康に関する講話を実施する。<br>・かかりつけ歯科医を持つ動機づけとして、簡易検査キットによる歯周病菌リスクチェックを行う。(希望者)   | 9事業所<br>180名   | 9事業所<br>142名  | 9事業所のうち、8事業所で歯周病菌リスクチェックを実施<br>リスクの見える化に繋がり好評であった   | 継続実施   |

| 担当課     | 事業概要   | 令和6年度実績   | 令和7年度見込み  | 取組状況   | 今後の方向性   |
|---------|--|---|---|--|--|
| 健康増進課   | ○ 精神保健対策の推進<br>・第2期自殺対策計画の推進<br>ゲートキーパー研修の拡充、SOSの出し方教育の実施  | ・ゲートキーパー研修:受講者数1,445人<br>・SOSの出し方に関する教育:<br>全小学5年生2,793人<br>学校保健委員会1,183人                         | ・ゲートキーパー研修:受講者数1,400人<br>・SOSの出し方に関する教育:<br>全小学5年生3,095人<br>中学1年生出前授業94人    | ・ゲートキーパー研修:<br>市民、学校、企業、民生委員、市職員等を対象に自殺対策を支える人材育成としてゲートキーパー研修を実施<br>・SOSの出し方に関する教育:<br>小学5年生を対象に、オンライン授業で市内一斉に、不安や悩みを抱えているときに誰にどのように相談するか、リラックス方法等について授業を行う。   | ・ゲートキーパー研修:継続実施<br>・SOSの出し方に関する教育:<br>全小学5年生は令和6年から継続実施のため、2年後のフォロー授業として、令和8年度から私立中学を含めた全中学1年生にも実施する。                                |
| 健康増進課   | ◎ 企業向け運動習慣化促進事業<br>・クアオルトウォーキングを普段生活に取り入れ、IoTデバイスにより日々のヘルスデータの管理を行う健康づくりプログラムを市内事業所に提供する。  | スポーツ補助金不採択のため実績無  |   |  |  |
| 健康増進課   | ○ とよはしクアオルト健康ウォーキング<br>・あいち健康プラスを活用したウォーキングイベントの定期開催や民間企業とのコラボイベントの開催、ウォーキングの効果検証を踏まえた健康経営応援メニュー化等、広く市民の健康づくりに向けた活用促進を図る。  | 【オープニングイベント】<br>「クアの道」認定記念式典及びウォーキング体験会開催<br>【あいち健康プラスアプリ内にデジタルマップ(リアルウォークコース)整備】                 | 【市民向け】<br>9回開催 参加者77名<br>【親子向け】<br>1回開催 参加者5組13名<br>【企業向け】<br>2企業に実施        | 【市民向け】<br>岩屋緑地、高師緑地の2コースでクアオルト健康ウォーキングを実施<br>【親子向け】<br>親子で歩こう！カブトムシと出会う夏のクアオルト体験会を実施<br>【企業向け】<br>とよはし健康宣言事業所応援メニューとして実施し、企業の健康経営の取組を支援  | ・開催回数を拡充し、継続実施   |
| 健康増進課   | ◎ 食改サポーター(ヘルスサポーター)養成プロジェクト<br>・食の大切さを地域へ広める役割を担う食生活改善推進員の活動をさらに拡大させるため、大学生を対象に、食生活改善推進員の補助要員である「食改サポーター」を養成する。養成後は、食生活改善推進員の活動を支援し、活動を通して食改サポーター自身の食生活リテラシー向上を図る。 | —   | ・講座申込数:13人<br>・講座参加者(養成者):8人  | 【出走イベント・講座】<br>・福岡校区フェスティバル<br>福岡校小学校で食改、民生員とともにブースでクイズ、ベジチェック、クッキーの配布を行い、食改のPR、野菜摂取増加の啓発を実施。<br>・食改養成・育成講座<br>前半は、保健所調理室で簡単ヘルシースイーツを食改、食改育成講座参加者と作成し、交流を行った。後半は、婦人科医から女性の健康づくりを中心とした講義に参加。  | ・現在の食改サポーターは、来年度から出走を予定している保育園等での食育活動に向けて練習を開始し、体制を整える。<br>また、第二回食改サポーター養成講座を実施するため、大学と調整等進める。                                       |
| 健康増進課   | ○ 健康な地域づくり事業<br>・地域の健康づくりを校区単位のみならず、自治会内グループ等へ拡大。<br>・豊橋いきいき健康マップはスマートフォンなどのデジタルの活用に向けて検討する。   | 【地域の健康づくり事業】<br>・活動校区数:19校区<br><br>【豊橋いきいき健康マップ】<br>・新規作成校区:3校区<br>・改訂校区:3校区<br>(合計24校区、R7年3月末時点) | 【地域の健康づくり事業】<br>協力イベント数:11校区<br><br>【豊橋いきいき健康マップ】<br>新規作成校区:1校区<br>改訂校区:3校区 | 【地域の健康づくり事業】<br>・松山校区まちなかフェスティバル、平野町老人会 血管年齢測定会、高師校区スポーツフェスタ、太極拳サークル 握力&体組成計測定、岩田校区ウォーキング大会、福岡校区ふれあいフェスティバル、大清水校区三世代レクスボ大会、向山校区三世代ふれあい事業、大清水旧陸軍飛行場跡地を歩こう会(予定)、嵩山校区スポーツ祭(予定)、八町老人クラブ 健康測定会(予定)<br><br>【豊橋いきいき健康マップ】<br>・新規作成:細谷校区<br>・改訂校区:八町、磯辺、天伯校区 | 【地域の健康づくり事業】<br>提供メニューの追加・廃止や、実施方法のスリム化など、事業について検討しつつ継続実施。<br><br>【豊橋いきいき健康マップ】<br>新規作成はR7年度で終了。改訂については、冊子の印刷はせず、マップデータを市HP等に掲載していく。 |
| こども保健課  | ○ 産後ケア事業の拡充<br>・令和7年4月から 利用負担軽減を上限5回から7回に拡充  | 延べ2036人   | 延べ3198人   | 出産後1年未満の母子に対し、7日を限度に利用料を補助   | 継続実施   |
| こども保健課  | ○ 生殖補助医療費補助の拡充<br>・継続的な治療を後押しするため、複数回治療者への補助を実施  | 延べ144人  | 延べ300人  | 初回治療の自己負担額に対して上限15万円、2回目以降の治療の自己負担額に対して上限3万円を補助  | 継続実施   |
| 生活衛生課   | ○ 豊橋市動物愛護センター(仮称)整備事業<br>・10月開所に向けた準備<br>・動物愛護管理に係る普及啓発や保護動物の譲渡推進、センターにおける不妊去勢手術の実施  | ・センターの運営開始に向けた準備<br>・センターの取組みについて、部会で意見を聴取  | ・センター開所<br>・動物愛護デー開催<br>・動物愛護関連啓発行事を企画、開催                                   | ・愛称、ネーミングライツパートナー決定<br>・動物愛護センター開所式挙行<br>・動物愛護デー、猫譲渡会、バックヤードツアー開催<br>・地域猫不妊去勢手術開始  | ・市民や関係部局と連携・協働し新たな学習機会を創出<br>・センターにおける不妊去勢手術実施による地域猫活動支援の充実<br>・ペット防災講座の開催<br>・ペット版フードドライブの実施  |
| 生活衛生課   | ○ 食品衛生指導事業<br>・食品等事業者に対し、毎年度策定する「豊橋市食品衛生監視指導計画」に基づく監視指導を行うとともに、引き続き「豊橋市ええじゃないかHACCP推進事業」による支援を実施する。  | 監視指導件数<br>1,992件  | 監視指導件数<br>1,700件  | 令和7年度は新たに井戸水等を利用して食品の製造等を行っている施設に対し、使用水の衛生管理についての監視指導を実施   | 継続実施   |
| 食肉衛生検査所 | ○ と畜場HACCP推進事業<br>・実施内容:東三河食肉流通センターが実施するHACCPに基づく衛生管理の実施状況の検証と指導   | 外部検証実施計画どおり実施   | 外部検証実施計画のとおり実施予定  | 現場検査、微生物試験の実施  | 継続実施   |
| 食肉衛生検査所 | ○ 調査研究事業<br>・食肉の安全向上やそれにかかわる人材育成のための調査研究事業の実施  | 3演題を発表  | 3演題を発表  | 優秀演題として2演題選出され、全国食肉衛生検査所協議会食肉・食鳥肉衛生研究発表会において発表   | 継続実施   |